「過去における診療経験、手術等」選択項目一覧

別　紙

　申請される各障害区分における該当項目を以下から選択し、経歴書の「過去における診療経験、手術等」欄にその番号をすべて記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 区分 | 過去における診療経験、手術等 |
| 視覚 | **①**　眼科手術（外眼手術、内眼手術、及びレーザー手術を含む）に50例以上関与し、その内、執刀者として20例以上の経験がある。 |
| 聴覚 | **①**　聴覚障がい者（児）の診療経験が３年以上である。  **②**　オージオグラム、スピーチ・オージオグラムの検査結果を判定した経験が３年以上である。  **③**　他覚的聴力検査の結果を判定できる。 |
| 平衡 | **①**　めまい・平衡機能障がいの診療経験が３年以上である。 |
| 音声・言語 | （選択項目なし） |
| そしゃく | **①**　嚥下機能障がいの診療経験が３年以上である。 |
| 肢体不自由 | **①**　肢体不自由に関する障がいについての理解が十分であること、もしくは筋力、関節可動域の手技に習熟している。  ※　なお、当該障がいの診療や治療に従事した施設名及び指導者名を、経歴書に追記すること。 |
| 心臓 | **①**　臨床研修病院等の総合病院の循環器内科、小児科、あるいは心臓血管外科等で、３年以上心臓機能障がいの臨床経験を積んでいる。  **②**　循環器内科もしくは心臓血管外科での診療経験はないが、一般内科や外科等で現に心臓・血管系の診療に、３年以上携わっている。 |
| じん臓 | **①**　保存期腎不全に30例以上携わっている。  **②**　慢性透析導入に30例以上携わっている。  **③**　急性腎不全の治療を経験している。  **④**　腎臓移植を経験している。 |
| 呼吸器 | **①**　慢性呼吸不全の治療を、主治医として担当したことがある。  **②**　慢性呼吸不全の急性増悪の治療を、主治医として担当したことがある。  **③**　在宅酸素療法の処方を、主治医として行ったことがある。  **④**　スパイログラム検査を、自らが験者として行ったことがある。 |
| ぼうこう  ・直腸 | **①**　ぼうこう機能障がいによる尿路変向（更）のためのストーマ造設やストーマ管理等を行った経験、または排尿機能障がいによるカテーテル留置、自己導尿指導などの経験が10例以上ある。  **②**　直腸機能障がいによる腸管ストーマ造設や管理等を行った経験、または治癒困難な腸瘻等の管理・指導などの経験が10例以上ある。 |
| 小腸 | **①**　小腸機能障がいにより中心静脈栄養法又は経管栄養法を施行した症例を10例以上有する。 |
| 免疫 | **①**　ＨＩＶ感染症もしくは後天性免疫不全症候群の患者を実際に担当し、抗ウイルス薬の処方を行った経験がある（ＡＲＴ療法の経験がある）。  **②**　山形県もしくは厚労省が開催する研修会等に出席したことがある。 |
| 肝臓 | **①**　肝臓機能不全に関わる診療経験がある。  **②**　肝臓移植に関わる診療経験がある。 |